

## 桜新町アーバンクリニックを視察して

水俣芦北地域在宅医療連携拠点事業所 栄永徳博

- ・今回、現場に同行できたことは、在宅医療の本質を知ることができ、今後の仕事に多いに参考になりました。
- ・最初に訪問した患者さんは、朝、自宅で作業中に指にとげがささり、気になるが諦めかけ、意気消沈しておられました。そこに、看護師と医師でとげを取除いたことで、それからの会話は弾んでいました。この小さな出来事は、患者さんにとっては最も大切なことで、朝からの憂鬱な生活がいつぺんに吹き飛び、その後の患者さんの会話に余裕がでてこられたのを感じました。これも在宅医療の魅力の一つかもしれません。
- ・医師が聞き役に回り、患者が状態を話す。会話が止まったら看護師や薬剤師が助言をする。時には、言うことを聞いてくれない夫（患者さん）に、奥さんの代弁を行う。皆さんの気持ちが、患者さんを中心に回っています。
- ・6件訪問した患者は、ほとんどの方ががんを患っておられました。どの患者さんも笑顔がとても印象的でした。
- ・訪問が終わり、エレベーターの中での会話で「今日の〇〇さんは気分が良さそうだったなあ」と患者さんの一瞬の笑顔を見逃さずに感じとり、そこに看護師さんたちが喜びを感じておられる姿に対して、職員の皆さんのすばらしさを感じました。
- ・今回、貴重な体験をお世話いただきました桜新町アーバンクリニック訪問看護ステーションの皆様には感謝します。また、伺いたいと思います。ありがとうございました。